

会報

No. 110

令和6(2024)年3月15日

<https://www.library.pref.kyoto.jp/k-lib/council>

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町

京都府立図書館内

TEL (075) 762-4655

<目次>

1面

- ・歴彩館の寺子屋講座
(京都学・歴彩館)

2面～3面

- ・井手町図書館リニューアルについて
(井手町図書館)
- ・図書室移転について
(伊根町文化振興・多世代交流施設「伊根の杜」)
- ・南部研修報告(八幡市立八幡市民図書館)

4面

- ・中部研修報告
(南丹市日吉図書室)
- ・第三十二回京都図書館大会を開催しました(京図連協事務局)

歴彩館の寺子屋講座

京都学・歴彩館 赤羽 莉奈

京都学・歴彩館では、二〇二三年八月二日と八月八日に子ども向け体験講座「寺子屋講座」を開催しました。内容は、「歴彩館でボードゲームを楽しもう!」と「浮世絵のペーパークラフトをつくろう!」の二部制で、参加者は延べ九十三名(二回参加の方あり)となり、大盛況のうちに終わることができました。

寺子屋講座とは、職員主体で企画する子ども向けのイベントで、ゲームやものづくりを通して当館の資料に親んでもらうことを目的としています。二〇一一年から始まり、二〇一九年以降は毎年定期的実施することとなりました。

○ボードゲーム

「歴彩館でボードゲームを楽しもう!」は、二〇一九年から毎年開催し、今年で五回目となります。立案から毎年担当を務めるのは資料課の藤原課長補佐です。二〇一七年の図書館総合展で、ボードゲームが図書館の賑わい創出や新たな利用者への働きかけに有効な手段だと気づいたことがきっかけでした。館内でもあまり馴染みがなかったボードゲームですが、イベントを開催するために、まずは館内の周知・普及活動をしました。今でも時々昼休みを使って職員同士で楽しんでいます。

内容は、当館の主たる収集分野である京都に関係するボードゲームを、職員がゲームマスターとなってプレイします。例えば、京都の観光地を巡るものや、京都議定書で合意した環境問題を防ぐもの、枯山水や宇治茶に関するものなど。難易度の異なる多様なテーマのゲームを用意し、初対面の方も、大人も子どもも、みんなで楽しむことができるのが特徴です。

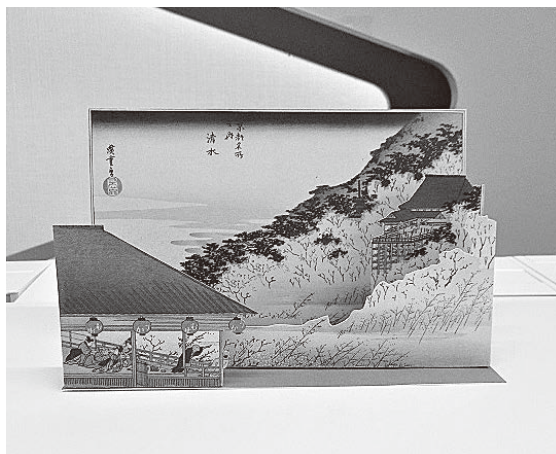
参加者は、初年度は少なかつたものの、毎年着実に増えています。中には熱心なりピーターもおられ、会場に展示した関連資料と合わせて、ボードゲームを楽しみながら知識が増えるのがよかつたという声をいただいています。

○ペーパークラフト

「浮世絵のペーパークラフトをつくろう!」は、今年度が初めての試みです。二〇一九年以降、寺子屋講座がワンパターン化していることを課題とし、新しくものづくりをメインとするイベントを考えました。企画立案およびデザインは資料課の赤羽が担当しました。

内容は、ペーパークラフト制作とワークシートの二部構成で、ペーパークラフトの題材は、当館所蔵の歌川広重作「京都名所之内」から「清水」を選びました。子どもが視覚的に京都の歴史や文化を学ぶことに適していることと、「歌川広重」と「清水寺」は知名度が高く集客を見込めると考えたためです。デザインおよび設計は、担当者がイラストレーターを使用してオリジナルで作成し、絵をパーツごとに分解

して、背景に雲や桜を合成しました。参加者は、切り出したパーツを立体的に組み立てて制作します。ワークシートは、ただ制作するだけで終わらず、知識を持ち帰ってもらう目的で実施したもので、問題形式で利用者の興味を喚起し、関連資料の展示と合わせて学ぶ楽しさを提供しました。



○今年度の新たな試み

今年度は例年と異なる日程や内容で、館内でも反対の声がありました。人が集まらないのではないかと、日程に無理があるのではないかと、という声があったからこそ、絶対に成功させるという意思の元で、スタッフの協力を得ながら

ら、成功裏に進めることができました。

具体的には、チラシなどの広報物を目を引きやすいデザインに一新して、例年より早い二か月前から広報を始め、特にSNSの投稿を大幅に増やしました。さらに、午前午後の二部制にして一日の中で異なるイベントを開催することで、双方の参加者を誘導することができました。その結果、参加者数は昨年比四倍以上となり、多くの好評の声をいただきました。特に評価されたのは、大人も子どもも一緒に楽しめる点でした。ボードゲームは平易なレベルのものから難しいレベルのものまで用意したこと、ペーパークラフトは適切な難易度かつワークシートを利用して学ぶ場を設けたことが、その評価につながったのだと思います。

新しい企画は、館内の理解を得たり、人を集めたりするのが難しいです。しかし、歴史館は今後も挑戦を続ける施設でありたいと思います。

井手町図書館

リニューアルについて

井手町図書館 鈴木 浩史

井手町図書館は、令和五年七月十八日に新たな場所に移転・開館いたしました。旧館と同じく「井手町立山吹ふれあいセンター」との同居で、今回は二階部分を占めます。蔵書数は約九一、六〇〇点と増加していませんが、延べ床面積は八七八㎡と、旧館よりも

二〇〇㎡ほど広がりました。

新しい図書館の建物は、北側と南側に分かれ、その間をブリッジと呼ばれる渡り廊下が結んでいます。おおむねS字型の建物内には壁面を埋め尽くす書架と、それに比べてやや低めの自立書架が並んでおり、木製の梁や柱と相まって、本の森を訪ねたような感覚をもつことができます。



北側には児童書のエリアと新聞・雑誌閲覧コーナーがあり、特に児童書コーナーには楽しいしかけを用意しました。書架はくねくねと折れ曲がった複雑な形状をしており、まるで迷路のような感覚が広がります。その書架にはのぞき穴やトンネル、ベンチが設けられ、まるで探検するような感覚で本探しが楽しめます。また、授乳室や子

ども用のトイレも完備されています。

ブラウジングコーナーには雑誌五十六タイトル、新聞六紙が設置され、視聴覚資料も利用者登録があればその場で視聴できるブースが三席用意されています。ブリッジには長いカウンターがあり、席も十二席設けられています。ここでは自習を行うことが認められ、水分補給も可能です。蓋の閉まる飲み物であれば自由に飲むことができ、学習や作業に集中することができます。



一般書エリアは児童書エリアからブリッジを挟んで離れており、喧騒から離れた静寂性を保つことができます。旧館に比べて天井までとどく壁面書架が増え、全体として書架に余裕ができました。この余裕を生かして、図書資

料を面出しすることができ、利用者へのアピールが一段と向上しました。

また、引き続き自動貸出機も設置され、エレベーター出口と階段出口にはICゲートが設置されています。これにより、無断持ち出しを防ぎつつ、入退館者数のカウントも可能になりました。

これらの特徴を生かし、「滞在型」の図書館を目指してこれからも整備を進めてまいります。また、一階部分に併設された地域振興交流拠点施設「テオテラスいで」にはカフェや物販などがあり、休日は多くの人が訪れます。施設全体でにぎわいを生む施設となるよう、様々な事業やしかけを考えていきたいと思っています。



図書室移転について

伊根町文化振興・多世代交流施設 通称：伊根の杜
司書 多田ちひろ

伊根は海と人々の暮らしがとても近い町です。海辺に浮かぶように立ち並ぶ舟屋は国の重要伝統的建造物群保存地区に選ばれています。そんな海の京都、伊根町の図書室の移転について紹介します。

○移転の経緯

これまで情報通信設備を完備し、子どもから高齢者まで多世代で交流できる施設が伊根町内になく、郷土資料や文化に触れる場所がありませんでした。空き家の伝統的建造物の活用と利用を図る目的のもと、昭和四年木造二階建ての元郷土史家の建物の寄付を受けました。まちの中心部に位置し、図書室の移転とICT推進を担う施設として伊根町文化振興・多世代交流施設、通称伊根の杜（以下「伊根の杜」という）を二〇二三年九月にオープンしました。

○移転前（ほっと館図書情報室）の利用状況

ほっと館図書情報室は、伊根町役場横の建物二階に位置し住宅街と離れているため、図書室内で仕事をする人や勉強に利用する人も少なく、本を借りるに短時間立ち寄るだけの利用で一日平均数は三人と、利用は多くありませんでした。



○移転後（伊根の杜）の利用状況

伊根の杜には、平日でも平均十人以上と利用者が増え、特に土日祝日には五十人程度と多くの家族連れが来館されます。移転前の図書室を利用したことがなかった人たちが、初めて図書利用カードを作成してよく利用されるようになりました。雑誌を読みに来られるご近所の方や、保育所の送り迎え後にお子さんと一緒に本を選ぶ親子、WiFiが完備されているのでお仕事の場として利用される方も少なくありません。豊の「こどものひろま」は、複数の家族連れが同時に利用することが多く、まるで誰かの家のリビングで本を読むかのように、こどもだけでなく大人も本をゆつくりと読む様子をみることが出来ます。

○工夫したところ

伊根の杜は、「こどものひろま」「知識の蔵」「物語の蔵」と大きく三つのエリアに分かれて本が配架されています。ディスプレイスタンドを書架上に置き、本の表紙を見せるように工夫しました。全ての段にブックエンドを立てて見た目にもきれいな書架整頓を行っております。雑誌はカバーをつけて読みやすく、大型図書も手に取りやすく借りやすいように、専用の棚を設置しています。郷土資料は特に表紙を多く見せ、町内のみならず観光で伊根町に来られた方も見やすいように広くスペースを確保しており、今後も資料の収集・保存の場として活用される予定です。



○本のリクエスト急増

KーLibnetシステムによって伊根町に所蔵がない本でも取り寄せて読むことができるお知らせ、毎日様々なリクエストが多く届くようになりました。以前は学校支援セットのみの貸出利用だった小学校では、各授業テーマに関連する本の取り寄せをよく依頼されています。

○今後の取組イベントなど

読み聞かせや一日司書体験などのイベントを定期的に開催していく予定です。英語絵本の読み聞かせや、ワークシヨップを行うなど、利用者がさらに図書室で楽しんでもらえるような取組を計画しております。伊根の杜の入り口には壁面に大きな黒板が設置されています。クリスマス等の時期には、小学生から大人まで様々な年代の利用者が書いたサンタクロースやツリーの絵によって、来る人の心を和ませていきます。今後も多世代が交流できる伊根町の新たな場所として利用促進を図っていきたいと思います。

令和五年度京都府図書館等 連絡協議会実務研修会 （南部会場）（報告）

八幡市立八幡市民図書館 小西 尚子

令和五年十二月十三日（水）、京都府立図書館にて、南部ブロック主催の実務研修会を執り行いました。

今年度のテーマは「障がい者サービスクー図書再生機の操作方法及び障がい者への接遇について」とし、講師として京都ライトハウス情報ステーションより二名をお呼びしました。当日は二十二名の受講希望者に加え、事務局から数名が参加し、意欲的に研修会へ取り組む姿勢が見られました。

講習は前半後半の二部制とし、前半

は京都ライトハウス情報ステーションの紹介及び視覚障がい者への接遇について学びました。後半はデージー再生機の紹介及び各図書館での障がい者サービスの取組や現状について、意見交換を行いました。

接遇に関して「相手の立場を想像して接する」という、最も基本的ではありませんが忘れがちなことを重点的に学びました。実際に二人一組で手引きと呼ばれる誘導を行い、視覚障がい者へどのように声がけをしたら良いか、また視覚からの情報が得られない不安について体験しました。

後半はデージー再生機の機能を実際に体験したり障がい者サービスについて意見を述べあつたりと貴重な機会となりました。



令和五年度京都府図書館等
連絡協議会実務研修会
(中部会場)(報告)

南丹市日吉図書室 岡 真由美

令和五年十二月十四日(木)に、「見やすい、わかりやすい、伝わりやすい広報物・掲示物作成のコツ」を主題とした、京都府図書館等連絡協議会実務研修会が、府立図書館で開催されました。

講師には、京都市立芸術大学教授の舟越一郎氏をお招きし、「思いが届く！魅力を伝える！」図書館に行きたくなるデザインとは」との題でご講演いただきました。

舟越氏は、百貨店の宣伝広告や、株式会社ソニーのデザイン部門で、商品パッケージやロゴブランディング(会社名・商品名などの文字を特別にデザインしたもの(ロゴ))によって、企業のイメージや価値を顧客に伝える活動)に携わってこられた方です。

「優れたデザインは、情報が整理されている」と、ペットボトル飲料の本体にある情報を例に、まず、情報を重要な順に大きく三つに分け、次に、その三つに分けた情報をさらに二、三個に分け、文字や図表の大きさや配置を決めていくという方法を示されました。それを踏まえて、私達がこれまで作ってしまいがちだったありきたりのチラシを、スライドを使って「見やすく、伝わりやすく」改善したデザイン例を具体的に提案してい

ただきました。

また、ユニバーサルデザインの視点で、余白を効果的にとることで見やすくなる

・色覚障害のある方への配慮として、文字の色だけでなく、大きさの工夫によって情報を強調する方法

後半は、学んだことを生かしたワークショップで、切り紙を使ったクリスマスカード作りをしました

疑応答では、広報物がコスト面でも黒印刷になつてしまふことへの具体的な助言を求めると声が上がりました。

明日からの広報活動にすぐに生かせるような、有意義な研修会でした。



第三十二回京都図書館大会を
開催しました

京図連協事務局 美王 孝文

令和五年十一月二十日(月)に、第

三十二回京都図書館大会を京都府立京都学・歴史館大ホールで開催しました。第二十八回大会以来四年ぶりの対面開催で、約百名の参加者が会場に集いました。

今大会は、「デジタル社会と図書館」電子書籍サービスから考える」をテーマに、基調講演には筑波大学図書館情報メディア系准教授の池内淳氏をお招きし、「本と書店と図書館のミライ」と題して御講演いただきました。

事例発表では、松川村図書館館長の棟田聖子氏から「市町村と県による協働電子図書館」デジとよ信州」の運営について、福知山市立図書館館長の山路智子氏から「ふくちやま電子図書館について」、東京学芸大学総務部学術情報課の真家美咲氏から「電子書籍利用促進企画「学芸本ガチャ！」について」をそれぞれ御報告いただきました。今大会は、後日配信も実施し、三百名を超える方に御視聴いただきました。アンケートでは「図書館の未来が楽しみです」「配信があるのありがたい」といった感想をいただきました。



会報はホームページに掲載

京都府図書館等連絡協議会のホームページに過去の会報も掲載しています。御利用ください。